



33.6kbps DATA / 14.4kbps FAX
Modem PC カード

REX-9561

ユーザーズマニュアル



**FAX
Modem**

1997年3月
第1.0版

RATOC
ラトックシステム株式会社

はじめに

この度は REX-9561 をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。

本書は REX-9561 の導入方法ならびに使用方法を説明したマニュアルです。REX-9561 を正しくお使い頂くため、ご使用前に本書をよくお読みください。

ご注意

- ・ 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容については万全を期して作成致しましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきの点がございましたら弊社宛ご連絡ください。
- ・ 本製品を使用した上での運用結果につきましては、弊社では一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。
- ・ 本製品の保証や修理に関しては、添付の保証書に記述されております。必ずご確認の上、大切に保管しておいてください。
- ・ 本製品および本製品付属のマニュアルに記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

製品取扱上の注意

- ・ カードやケーブルの分解や改造等は絶対に行わないでください。
 - ・ カードやケーブルを無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重いものを載せる等は行わないでください。
 - ・ カードは電子機器ですので静電気を与えないようにしてください。
 - ・ ラジオやテレビ、オーディオの近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。
 - ・ モーターなどノイズを発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してご使用ください。
 - ・ 煙が出たり、変な臭いがする場合は、直ちにパソコンや周辺機器の電源を切り、電源ケーブル等もコンセントから抜き、販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。
 - ・ カードが濡れた場合、ショートによる火災や感電の恐れがあるため使用を中止し、販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。
 - ・ 本製品を保管する際、次のような場所は避けてください。
 - 直射日光の当たる場所や異常に温度が高くなる場所、暖房器具等の近く、温度差の激しい場所
 - チリや埃、湿度の多い場所
 - 振動や衝撃の加わる場所
 - スピーカー等の磁気を帯びたものの近く
-

製品に関するお問い合わせ

本製品に関するご質問がございましたら、下記まで電話、お手紙またはFAXでお問い合わせください。

ラトックシステム株式会社 サポートセンター
〒556
大阪市浪速区敷津東 1-6-14 朝日なんばビル
TEL 06-633-6766 (サポートセンター直通番号)
受付時間
月曜～金曜 10:00～17:00(土曜・日曜・祝日を除く)
FAX 06-633-3553 (FAXでの受付は24時間)

また、NIFTY-Serveの以下のフォーラムおよびインターネットのホームページでも受け付けております。

PC Vendor Station E (SPCVE)
電子会議室 8 番「ユーザサポート」

ラトックシステムホームページ
<http://www.rexpccard.co.jp>

お問い合わせの際は、最終ページの「質問用紙」に必要事項を記入の上、上記FAX番号までお送りください。折り返し弊社より電話またはFAXにて回答させていただきます。

ご質問の内容によってはお時間を頂く事がありますので予めご了承ください。

また、ご質問に関する回答は上記営業時間内の処理となりますので予めご了承ください。

サポートに関する物品の送料等はお客様負担となりますので、予めご了承ください

目次

1	REX-9561 の概要	1
	(1) REX-9561 について	1
	(2) 対応機種	1
	(3) 対応 OS	2
	(4) 梱包内容	2
	(5) パソコンへの装着方法について	3
	(6) 構内交換機 (PBX) を経由する接続の場合の注意点	3
	(7) パソコン側の PC カードスロットに対する設定について	4
	(8) その他	4
2	Windows95 でのセットアップ	5
3	Windows NT でのセットアップ	10
4	OS/2 でのセットアップ	17
5	Macintosh でのセットアップ	26
6	AT コマンド・S レジスタ・リザルトコードについて	31
	(1) AT コマンド体系について	31
	(2) AT コマンドの発行方法について	31
	(3) リザルトコードについて	32
	(4) S レジスタについて	32
	(5) 設定内容の保存について	32
7	AT コマンド一覧	33
8	リザルトコード一覧	39
9	S レジスタ一覧	42
	仕様	43

1 REX-9561 の概要

(1) REX-9561 について

REX-9561 は、PC Card Standard に準拠した PC カード型データ/FAX モデムです。

このカードは、一般公衆回線に接続することにより、データモード時 33600bps、FAX モード時 14400bps での通信が可能です。

(2) 対応機種

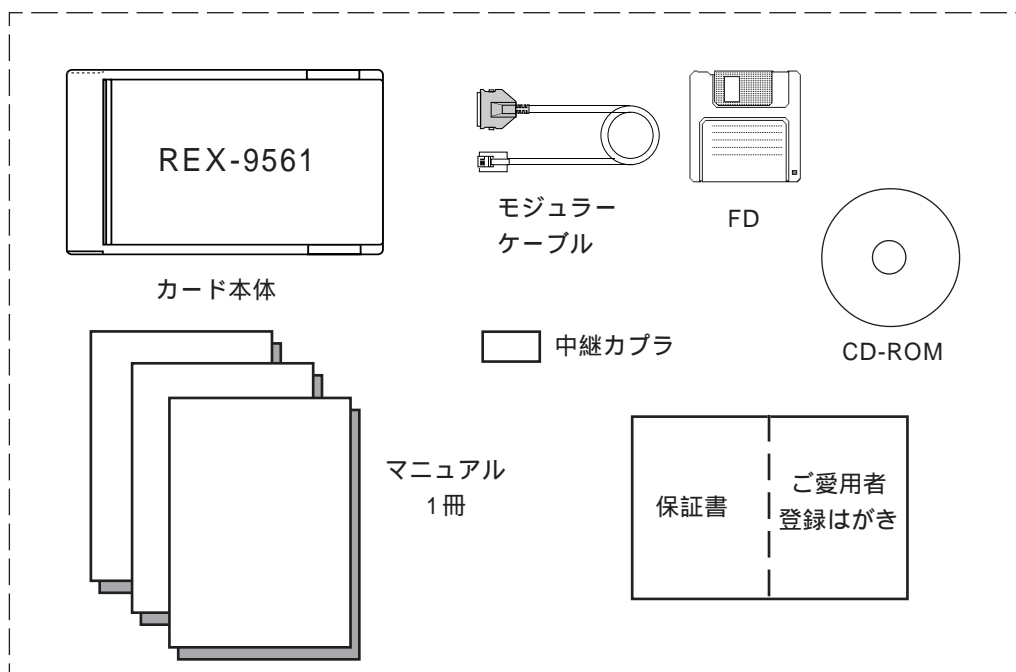
- ・ PC カードスロットを搭載した Windows95 が動作する PC/AT100% 互換機
- ・ Windows95 が動作する NEC PC-9821 ノートシリーズ
- ・ Windows95 が動作する EPSON PC-486/586NA シリーズ
- ・ Apple Macintosh PowerBook5300/1400/190 シリーズ

(3) 対応 OS

- ・ Windows 95
- ・ Windows NT 4.0
- ・ OS/2 Warp Version 4
- ・ 漢字 Talk J1-7.5.1 以降

(4) 梱包内容

REX-9561 の製品構成は以下の通りです。



ご愛用者登録はがき

製品情報やバージョンアップサービスなど、弊社から各種ご案内を差し上げるために必要となりますので、お手数ですが、必要事項を記入し2週間以内に弊社宛までご返送ください。

なお、本はがきをご返送頂けない場合、製品購入後のサポートサービスの提供ができなくなる場合がありますのでご注意ください。

保証書

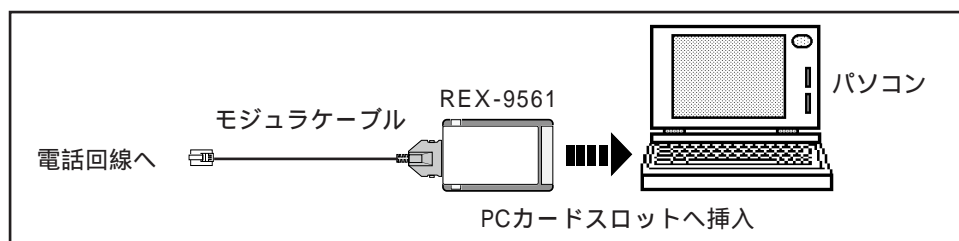
記載されている保証条項に基づき、保証期間内は無償で修理させて頂くためのものです。

記載の内容をお確かめの上、大切に保管してください。

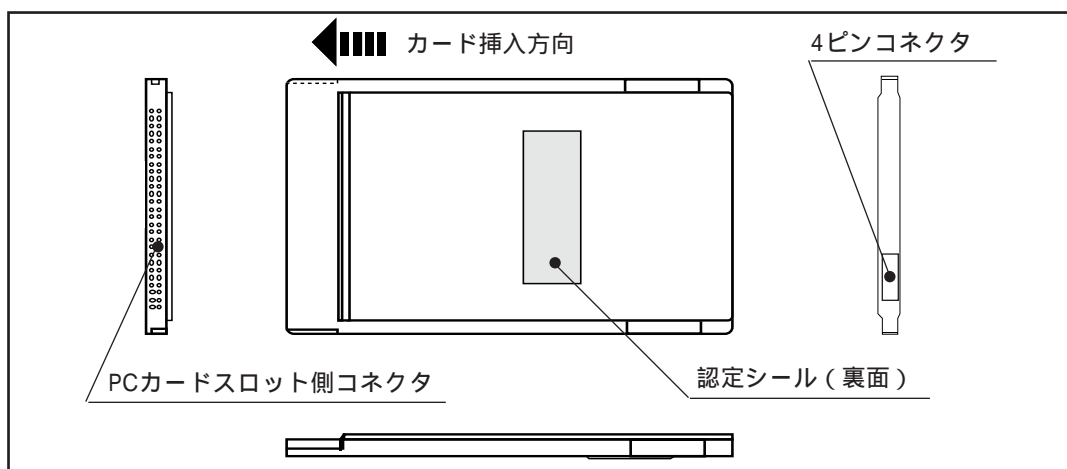
また、ご購入時に販売店様印と日付が記入されていない場合、お客様のご購入日から1年が経過していない場合でも有償修理となる場合がありますので、ご注意ください。

(5) パソコンへの装着方法について

REX-9561 は、PC カードスロットを持つパソコンにおいて動作するように設計されています。パソコンの PC カードスロットに、通常の場合カードの「REX-9561」と書かれているネームプレートを上面にして挿入し、下図のように電話回線と接続します。パソコンの種類によっては、カードの上下を逆にセットするものもありますので、詳細はご使用になるパソコンのマニュアルなどをご確認ください。



下記カードの正面図を上面にして、PC カードスロット側コネクタをパソコンの PC カード スロットに挿入します。4ピンコネクタに、付属のモジュラーケーブルを接続します。ケーブルをカードから取り外す時はコネクタの両側を押さえながら取り外してください。



(6) 構内交換機 (PBX) を経由する接続の場合の注意点

REX-9561 を構内交換機経由で接続する場合、各通信 (FAX) ソフトウェアの初期化コマンドに必ず「X3」を付加してください。このコマンドを付加しない場合、ダイヤル処理を行う際「NO DIALTONE」と表示されダイヤル処理が中断しますのでご注意ください。

(7) パソコン側の PC カードスロットに対する設定について

ご使用のパソコンによっては以下に記述に関する設定が必要な場合があります。

PC カードスロットへの電源供給の確認

PC カードスロットへの電源供給のオン・オフ設定できる機種では、電源が供給されるような設定になっていることを確認して下さい。

このような機能を持つ機種のほとんどは、セットアップやパワーセーブ機能の中の項目にて設定します。

例えば IBM ThinkPad シリーズの一部の機種では、導入メニューの「セットアップ」機能の「PC カード・コントローラの電源」という項目を「オン」になるように設定します。

PC カードスロットへ電源が供給されていない状態では、REX-9561 は全く使用できませんのでご注意ください。

オートパワーダウン機能での注意

ノートパソコンでは、設定された時間内に何も操作がなかった場合に自動的にパソコン本体の電源を落とす機能「オートパワーダウン機能」を備えたものがあります。パソコンの機種によっては、この機能が働いた場合に PC カードスロットへの電源供給も止めてしまう場合があります。REX-9561 が動作して、回線接続中にオートパワーダウン機能が働くと回線が切断されてしまいます。このような不具合を回避するためには、オートパワーダウン機能が無効になるようにパソコン本体を設定してください。

レジューム・サスペンド機能での注意

パソコンの機種によっては、レジューム・サスペンド機能が動作したときにもオートパワーダウン機能が働いたときと同じように、PC カードスロットへの電源供給を止めてしまうものがあります。このような場合には、レジューム機能が無効になるようにパソコン本体を設定してください。

上記設定方法の詳細に関してはご使用のパソコン本体のマニュアルをご参照ください。

(8) その他

本製品をご使用頂くには、本書で説明していない事項以外に以下のことを行っていただく必要があります。

・インターネットプロバイダとの契約

REX-9561 をインターネットに接続して使用する場合、インターネットプロバイダとの契約が必要となります。契約方法等の詳細に関しては、各インターネットプロバイダにお問い合わせください。

2 REX-9561 のセットアップ

ここでは REX-9561 を Windows95 搭載パソコンへインストールする方法を説明します
なお、ここでの説明はすでに PC カードスロットのセットアップが完了したものと進めていきます。従って PC カードスロットのセットアップがまだ完了していない場合、Windows95 のヘルプを参考に、PC カードスロットのセットアップ (PC カードウィザードなど) を先に行ってください。

(1) REX-9561 の PC カードスロットへの装着

REX-9561 をパソコン側の PC カードスロットへセットします。

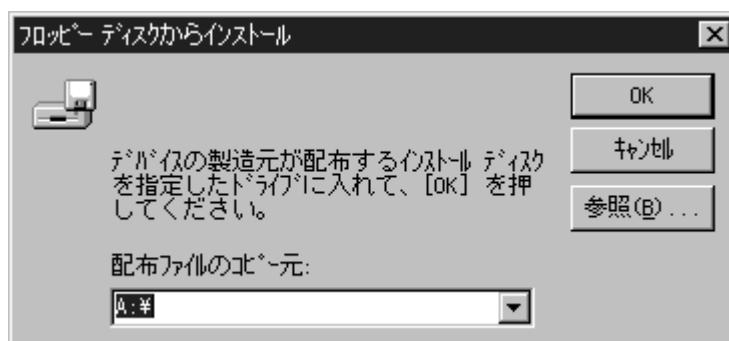
しばらくすると次の画面が表示されます。



上記画面で「ハードウェアの製造元が提供するドライバ(M)」を選択し「OK」をクリックします。

(2) ドライバディスクのセット

下記画面が表示されたら、REX-9561 に付属のディスクをパソコンのフロッピーディスクドライブにセットします。



一般的に PC/AT 機の場合 FD ドライブは「A:」ですが、PC-98 の場合内蔵 HD の環境により異なります

「配布ファイルのコピー元」がご使用のパソコンの FD ドライブが指定されている事を確認し「OK」をクリックします。表示されているドライブが FD ドライブと異なる場合、正しいドライブ名を入力した後「OK」をクリックします。

しばらくしてパソコン本体から「ピポッ」という音が出て、「新しいハードウェア...」のダイアログ表示が消えたら、ドライバのインストールは完了です。

(3) REX-9561 の動作確認

(1) (2)でのインストール作業が完了したら、次に REX-9561 が正常に動作しているかの確認を行います。

「スタート」メニュー内の「設定(S)」より「コントロールパネル(C)」を開き、その中の「モデム」アイコンをダブルクリックします。



このアイコンをダブルクリックします

モデムのプロパティ画面内で「検出結果」ボタンをクリックします。



ここをクリックします

「検出結果」画面で REX-9561 に割り当てられている COM ポートを選択し「詳細情報」ボタンをクリックします。これにより、REX-9561 に対してパソコンからモデムの確認が開始されます。



ここをクリックします

しばらくすると以下のような画面が表示されます。



上記画面のように各「コマンド」に対して「応答」側に内容が表示されていれば正常に動作しておりますので、最後に「OK」を何度かクリックして「モデム」のプロパティを終了してください。

(4) インターネットエクスプローラのセットアップ

ここではREX-9561 に添付の www ブラウザソフト「Microsoft インターネット エクスプローラ」のセットアッププログラムの起動方法を説明します。

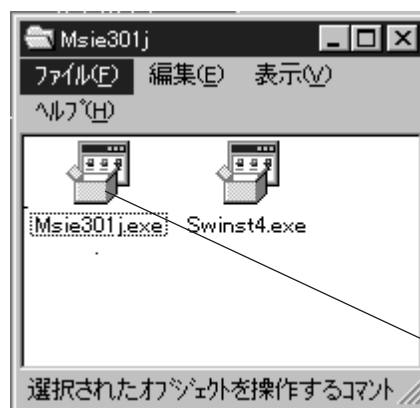
REX-9561 添付の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットし、マイコンピュータコンピュータより CD-ROM のアイコンをダブルクリックします。

しばらくすると、下記のウィンドウが表示されますので「Msie301j」フォルダをダブルクリックします。



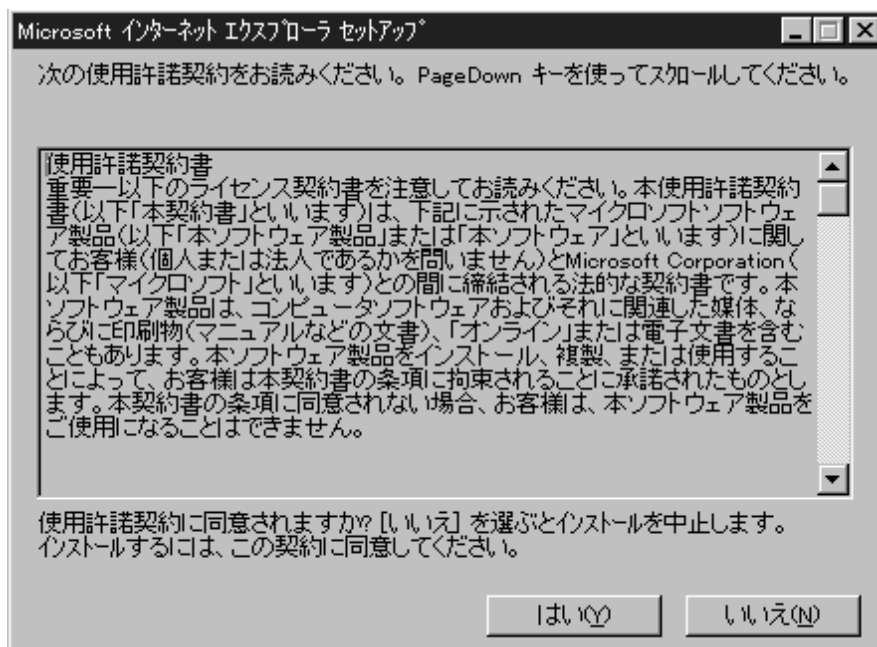
このフォルダを
ダブルクリック
します

「Msie3.01j」フォルダの中には次の2つのアイコンがありますので「Msie301j.exe」をダブルクリックします。



このアイコンを
ダブルクリック
します

しばらくすると以下の画面が表示されます



インストールを続行するには、上記契約に同意した上で「はい」をクリックします。後は、セットアッププログラムの指示に従い、インストール作業を進めてください。

3 Windows NT でのセットアップ

ここでは REX-9561 を Windows95 搭載パソコンへインストールする方法を説明します
なお、ここでの説明はすでに PC カードスロットのセットアップが完了したものとして進めていきます。従って PC カードスロットのセットアップがまだ完了していない場合、Windows NT のヘルプを参考に、PC カードスロットを使用可能状態にした上で、REX-9561 のセットアップを行ってください。

(1) REX-9561 の PC カードスロットへの装着

パソコンの電源を切った状態で REX-9561 を PC カードスロットに装着し、Windows NT を起動します。

コントロールパネルより「モデム」アイコンをダブルクリックします。



このアイコンを
ダブルクリックします

(2) モデムの検出作業

モデムアイコンをダブルクリックすると、以下の画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



ここをクリックします

しばらくすると以下の画面が表示され「標準モデム」として検出されますので「変更」ボタンをクリックします。



ここをクリックします

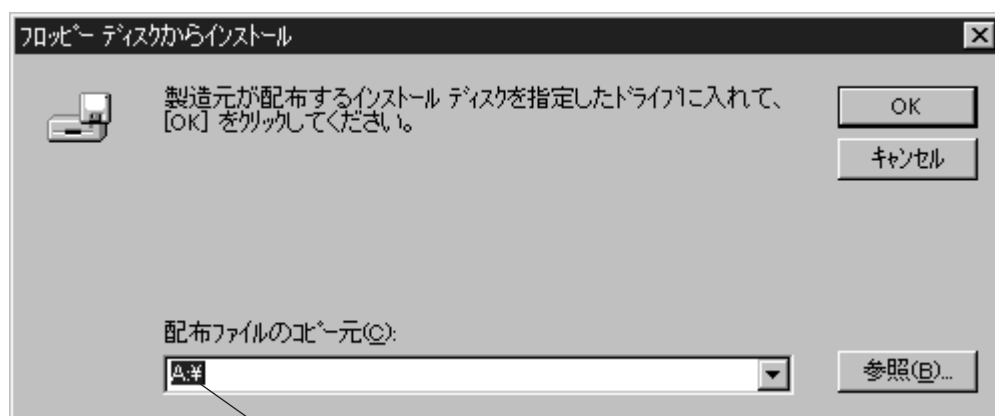
(3) REX-9561 の選択

下記の画面が表示された時点で「ディスク使用」をクリックします。



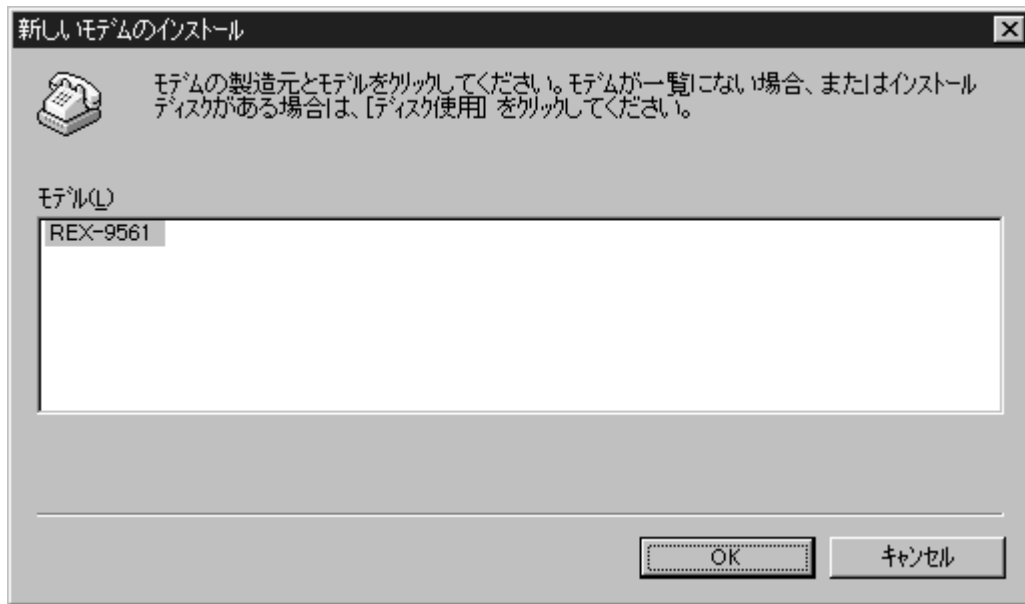
ここをクリックします

REX-9561 添付の FD をドライブにセットし「OK」をクリックします。PC-98 をご使用のお客様は環境によりフロッピーディスクのドライブ名が異なりますので「配布ファイルのコピー元」を実際のフロッピーディスクのドライブ名と一致している事を確認した上で「OK」をクリックします。



PC-98 の場合、環境により FD のドライブ名が異なりますのでご注意ください。

しばらくすると以下の画面が表示されますので「OK」をクリックします。



「COMx (xは環境により異なります) の選択されたモデム」に「REX-9561」が表示されている事を確認し「OK」をクリックします。



(4) 所在地の設定

パソコンをご使用になる所在地の「国名」「市外局番」を入力します。また、構内交換機等をご使用の場合外線へ発信するため「外線発信番号」を入力し「次へ」をクリックします。



所在地情報

現在の所在地情報を設定してください。

国名(W):
日本

市外局番(Q):
[]

外線発信番号(Q):
[]

ダイヤル方法
 トーン(D) パルス(P)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

下記の「完了」画面が表示されれば、セットアップは完了です。続いて、インストール確認を行います。



新しいモデムのインストール

モデムは正常にセットアップされました。

設定を変更する場合は、コントロールパネルの[モデム]でこのモデムを選択し、[プロパティ]をクリックしてください。

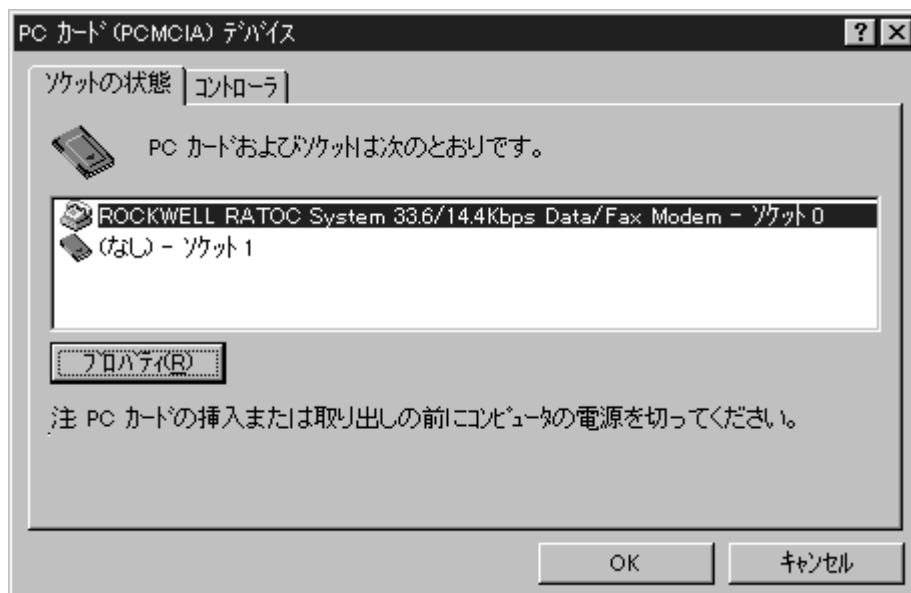
< 戻る(B) 完了 キャンセル

(5) モデムの確認

コントロールパネルより「PC カード」アイコンをダブルクリックします。



「ROCKWELL RATOC System...」側の文字を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



下記画面で、「デバイスマップ」の項目に「COMx(xは環境に異なります)」が割り当てられていれば、正常にインストール完了です。



4 OS/2 Warp 4 でのセットアップ

ここでは REX-9561 を OS/2 Warp 4 搭載パソコンへインストールする方法を説明します。
ここでの説明は PC カードのセットアップの方法と Modem のセットアップの方法を記述します。
PC カードスロットのセットアップが終了している場合、下図のプラグ & プレイ for PCMCIA が実行できます。



この画面を表示したまま、REX-9561 を PC カードスロットに装着した際、「カード」と「状況」の欄に正しく表示されれば、PC カードスロットのセットアップは既に終了しておりますので（他の PC カードを既に使用している場合など）「(2) Modem のセットアップ」からの作業を行ってください。

(1) プラグ & プレイ for PCMCIA のセットアップ

プラグ & プレイ for PCMCIA のセットアップを実行するために、デスクトップ上にある「OS/2 システム」アイコンをダブルクリックします。

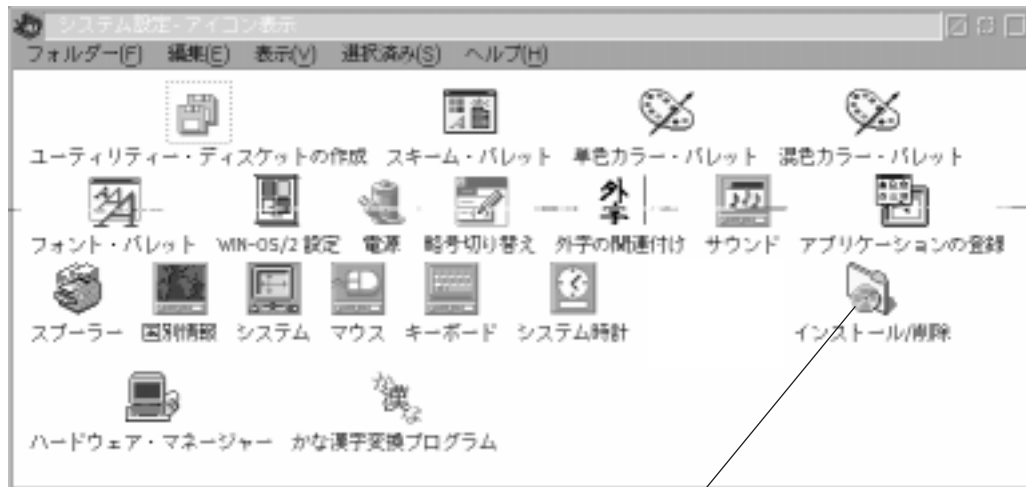


「OS/2 システム」内の「システム設定」アイコンをダブルクリックします。



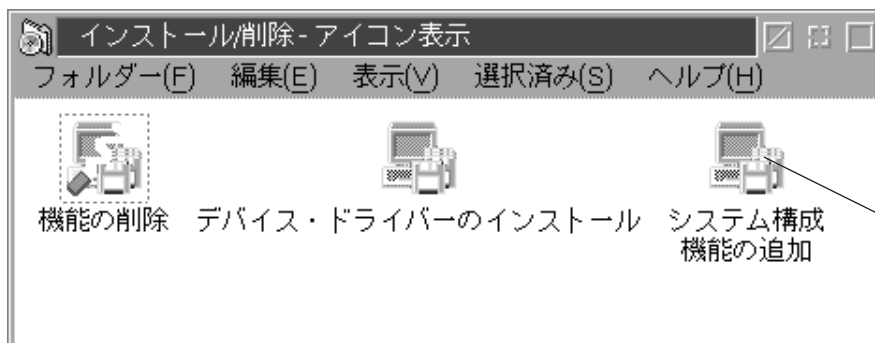
ここを
ダブルクリックします

「システム設定」内の「インストール/削除」アイコンをダブルクリックします。



ここを
ダブルクリックします

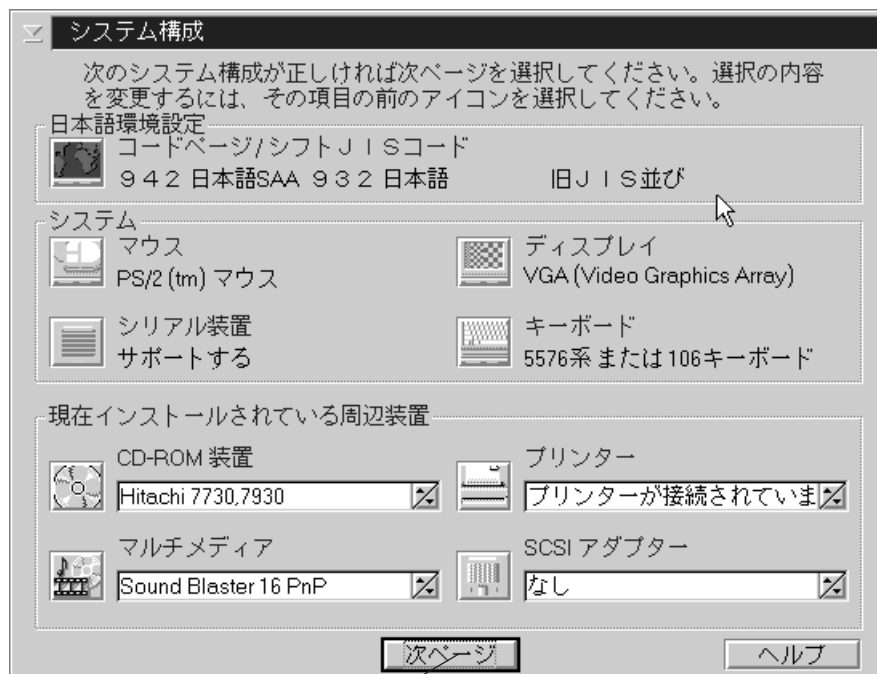
「インストール/削除」内の「システム構成機能の追加」アイコンをダブルクリックし、環境設定プログラムを起動します。



ここを
ダブルクリックします

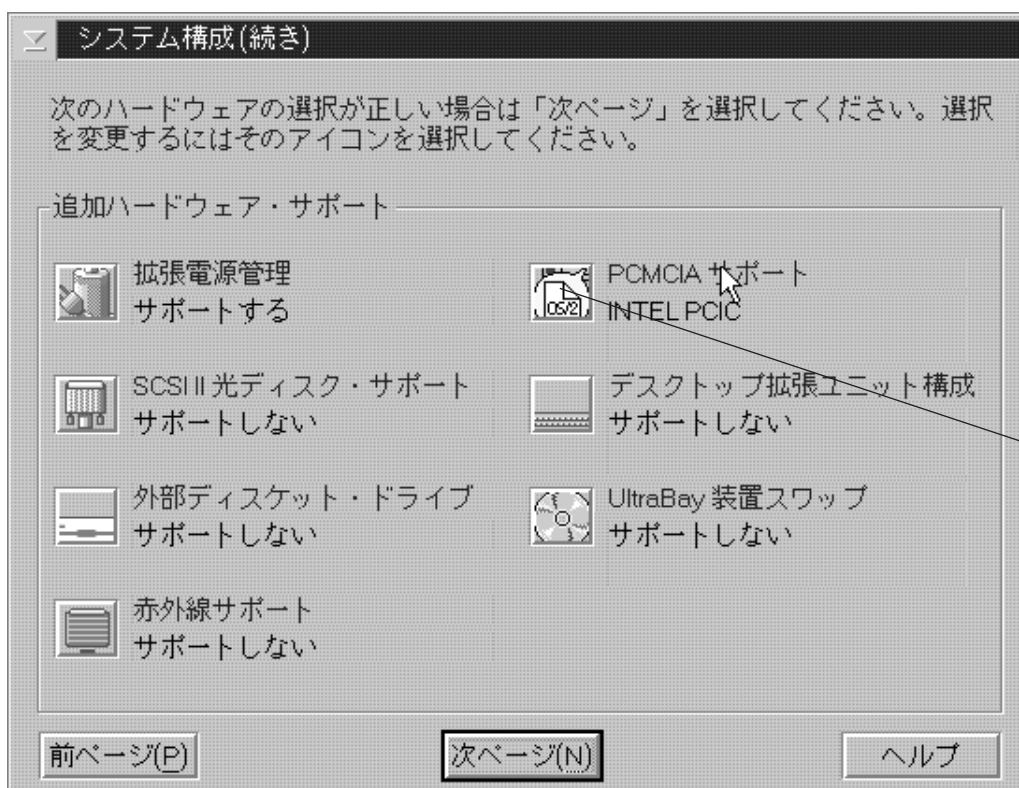
しばらくすると、下記のように現在のシステム構成が表示されます。

「次ページ」ボタンをクリックし、次へ進みます。



ここを
クリックします

「システム構成 (続き)」画面で「PCMCIA サポート」アイコンをダブルクリックします。



ここをダブル
クリックします

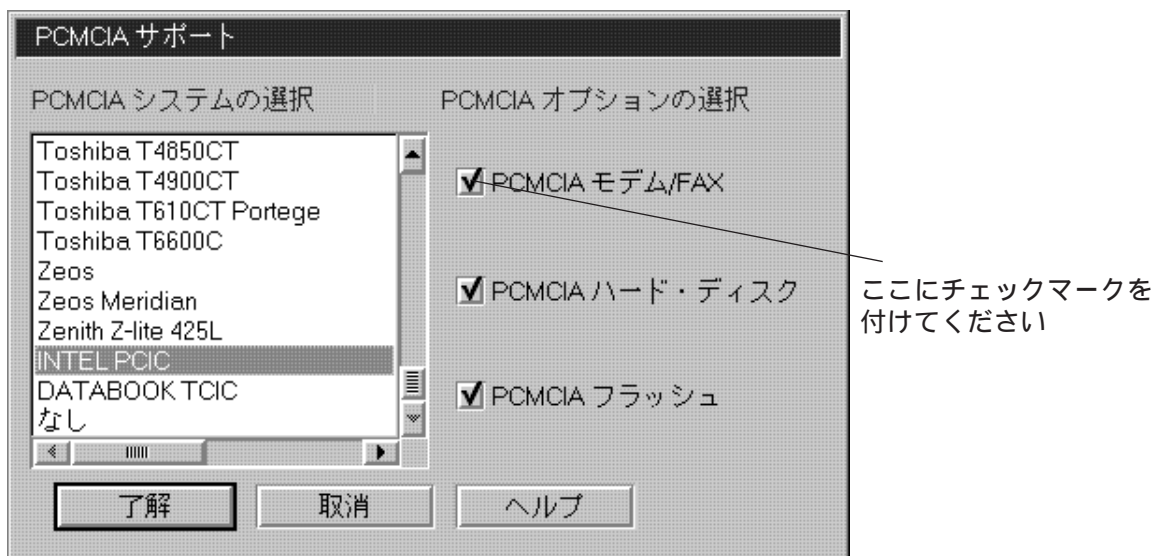
以下の画面では、現在ご使用のパソコンに合わせたPCMCIA コントローラを選択します。

「PCMCIA システムの選択」一覧内に現在ご使用のパソコン機種がある場合はそれを選択します。

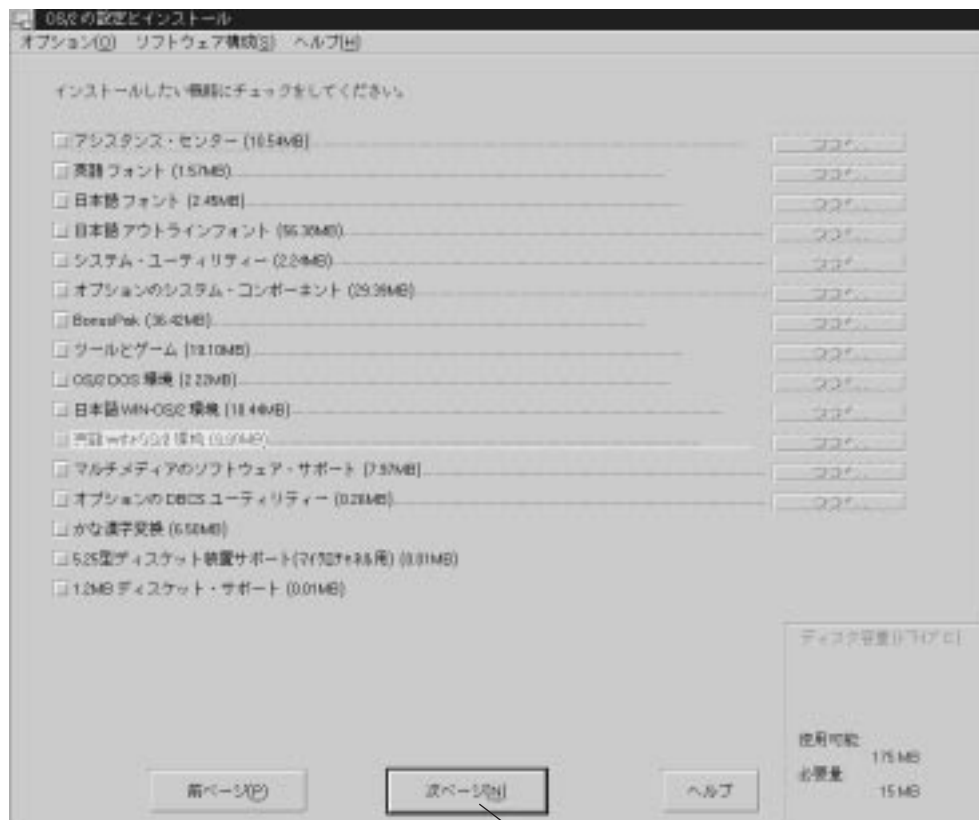
一覧にない場合、「INTEL PCIC」を選択します。

(ほとんどのパソコンでは「INTEL PCIC」を選択する事により問題なく動作致しますが、万一動作しない場合、パソコンメーカー等にお問い合わせください)

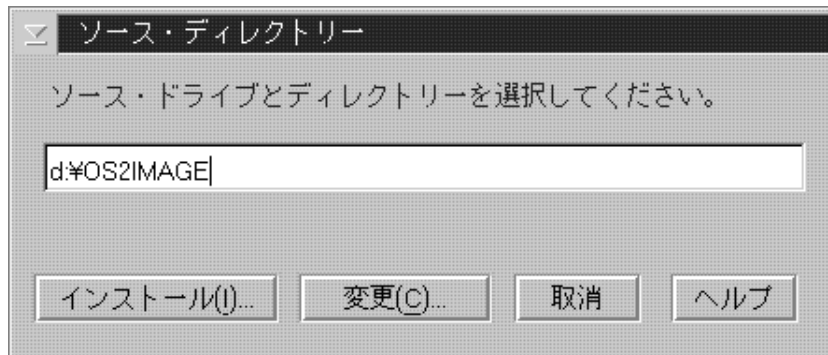
次に、「PCMCIA モデム / FAX」の項目にチェックマークを入れ「了解」をクリックします。



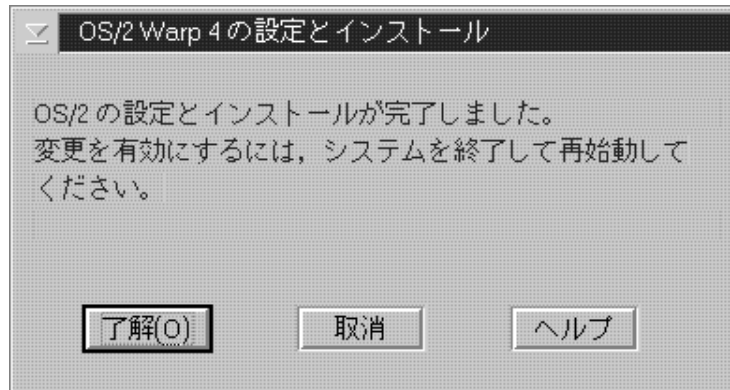
しばらくすると、以下の画面が表示されますので、「次ページ」を選択します。



OS/2 Warpのマスターの場所を確認する画面が表示されたら、OS/2のCD-ROMのドライブ名とディレクトリ名を指定します。(ディレクトリ名は「OS2IMAGE」です。CD-ROMのドライブ名はご使用の環境により異なります)



以下の画面で、PCカードのセットアップは完了です。「了解」をクリックしパソコンを再起動し、引き続き「(2) Modem のセットアップ」へ進んでください



(2) Modem のセットアップ

「システム設定」 「プラグ & プレイ for PCMCIA」 「AUTOUTL.EXE」を実行します。



「追加」の反を押して使用するカードを選択します。通常は下記画面のように資源が割り当てられます。

REX-9561 を COM1 として使用する場合「Modem Card(03F8)」を追加します。

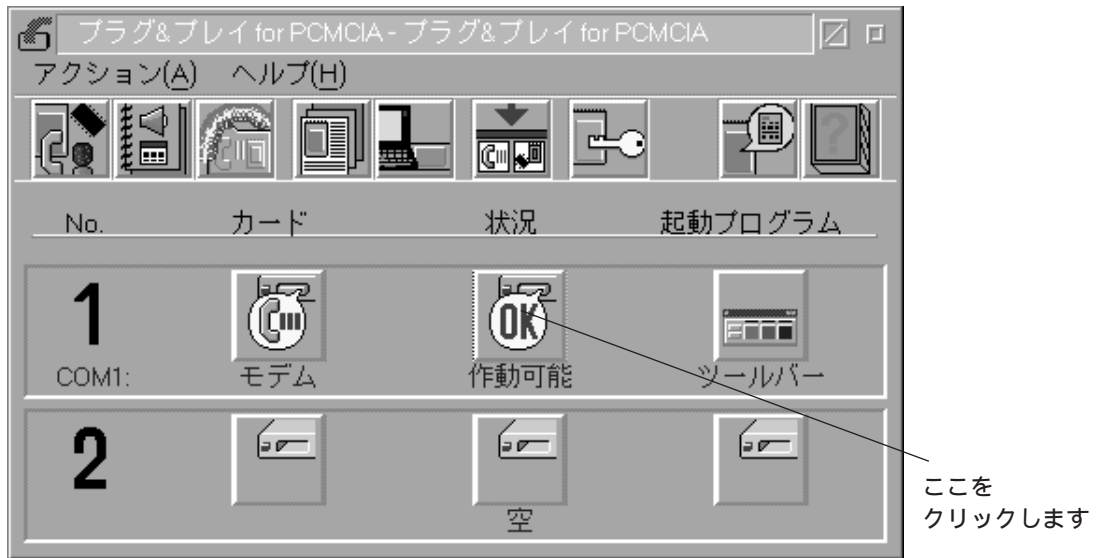
Modem Card	3F8	COM1	03F8
	2F8	COM2	02F8
	3E8	COM3	02E8
	2E8	COM4	02E8

Modem Card(03F8)を編集して、上の表の定義を変更することもできます。



設定終了後、画面の指示に従ってパソコンの再起動を行ってください。

パソコンが起動したら、REX-9561をPCカードスロットに装着し、「プラグ & プレイ for PCMCIA」をもう一度起動し、下記画面が表示されたら「OK」と書かれたアイコンをクリックします。



「状況の情報」画面で下記のように資源が割り当たっているかを確認します。



資源が問題なく割り当たっていれば Modem のセットアップは完了です。

(3) HyperACCESSLite for OS/2 での設定について

ここでは、OS/2 に標準添付のターミナル通信ソフト「HyperACCESSLite for OS/2」での設定方法について説明します。

なお、この説明では、「HyperACCESSLite for OS/2」のインストール方法・起動方法については省略します。(詳細は OS/2 のユーザーズマニュアル等をご覧ください。)

「通信の設定画面」で「モデム」の種類を「ユーザー定義(高速)」を選択し「モデムの設定」ボタンをクリックします。

通信の設定

電話番号(P): xxx-xxxx-xxxx

設定(データパリティストップ)(S): 自動検出

ボー・レート(B): 57600

ポート名(N): COM1

モデム(M): ユーザー定義(高速)

了解(O) 取消 ヘルプ

「ユーザー定義(高速)」を選択

「追加モデム設定コマンド」に「J0N3W0X3」を記述します。

設定が完了したら「了解」をクリックします。

モデムの設定

追加モデム設定コマンド(E): ¥J0¥N3W0X3

ダイヤル

パルス(ダイヤル回線)(P) トーン(プッシュ回線)(T)

キャリアー待ち時間(W): 60 秒

再試行回数(N): 20

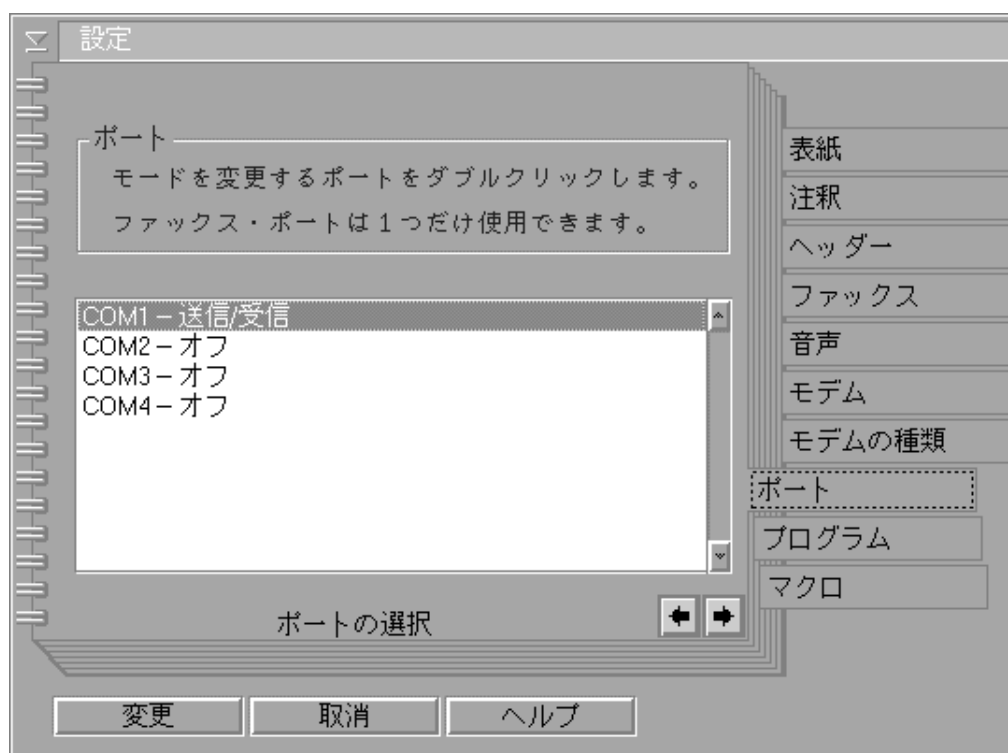
再試行間隔(R): 1 秒

了解(O) 取消 ヘルプ

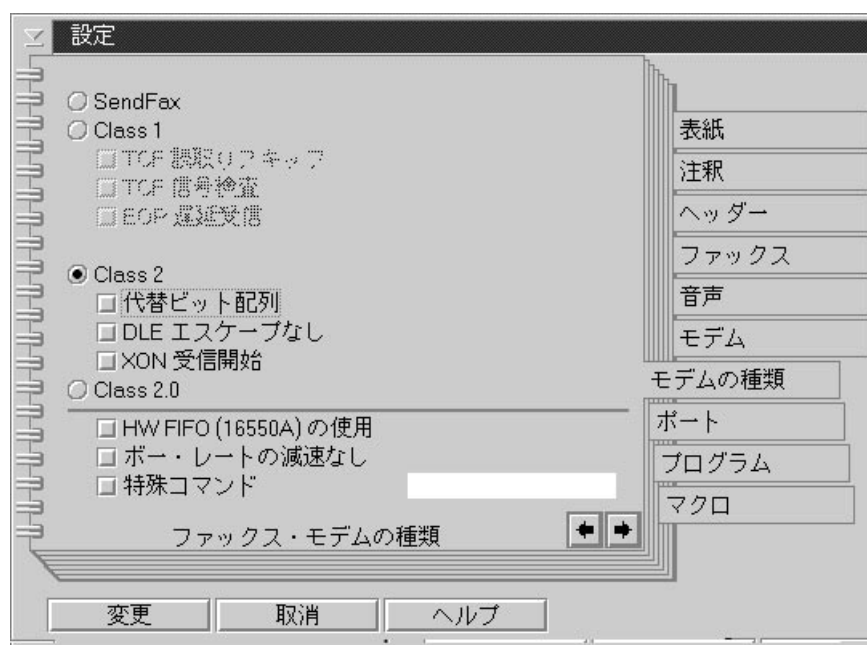
(4) FAX Works for OS/2 での設定

ここでは OS/2 標準添付の FAX 通信ソフト「FAX Works for OS/2」での設定方法を説明します。
なお、この説明では「FAX Works for OS/2」のインストール方法・起動方法は省略します。
(詳細は OS/2 のユーザーズマニュアル等をご覧ください。)

「ユーティリティ」タグ内の「設定」で「ポート」をこれから使用するポートに合わせます。



「ファックス・モデムの種類」を選択します。REX-9561 は「Class2」を選択します。



以上で設定は完了です。

5 Macintosh でのセットアップ

ここでは REX-9561 を Macintosh へインストールする方法を説明します。

(1) Macintosh 側に必要なソフトの確認

REX-9561 を使用するには、システムフォルダ内の機能拡張フォルダに以下の2つのファイルがインストールされている必要があります。(通常、出荷時のシステム構成ではインストール済です)



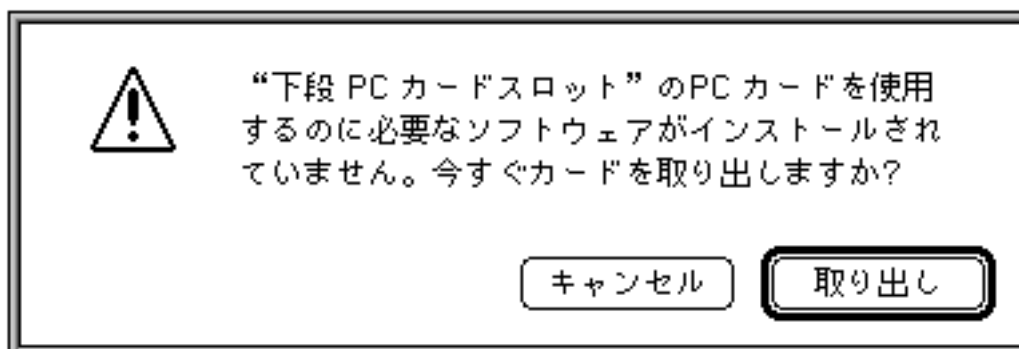
(2) REX-9561 の PC カードスロットへの装着

REX-9561 を Macintosh 側の PC カードスロットへセットします。

REX-9561 が正常に認識されるとデスクトップ上に以下のアイコンが表示されます。

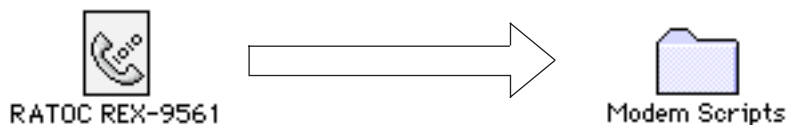


デスクトップ上に何も表示されない場合、または以下のメッセージが表示される場合は Macintosh 側に必要なソフトが正しくインストールされていない可能性が考えられます。(1)の項目で記述されているファイルが正しくインストールされているかご確認ください。



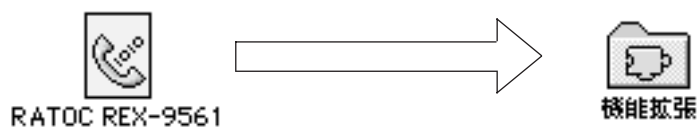
(3) CCL ファイルのインストール (Apple リモートアクセス使用時)

REX-9561 添付のFD より以下のファイルをご使用の Macintosh のモデム用ファイルフォルダにドラッグコピーします。



「REX-9561」アイコンを機能拡張フォルダ内の
「モデム用ファイル」フォルダ内にコピーします。
「モデム用ファイル」フォルダは「システムフォルダ」内の
「機能拡張」フォルダ内にあります。

リモートアクセスのバージョンが V2.1 以前の製品をご使用のお客様の場合、CCL ファイルは機能拡張フォルダへコピーします。

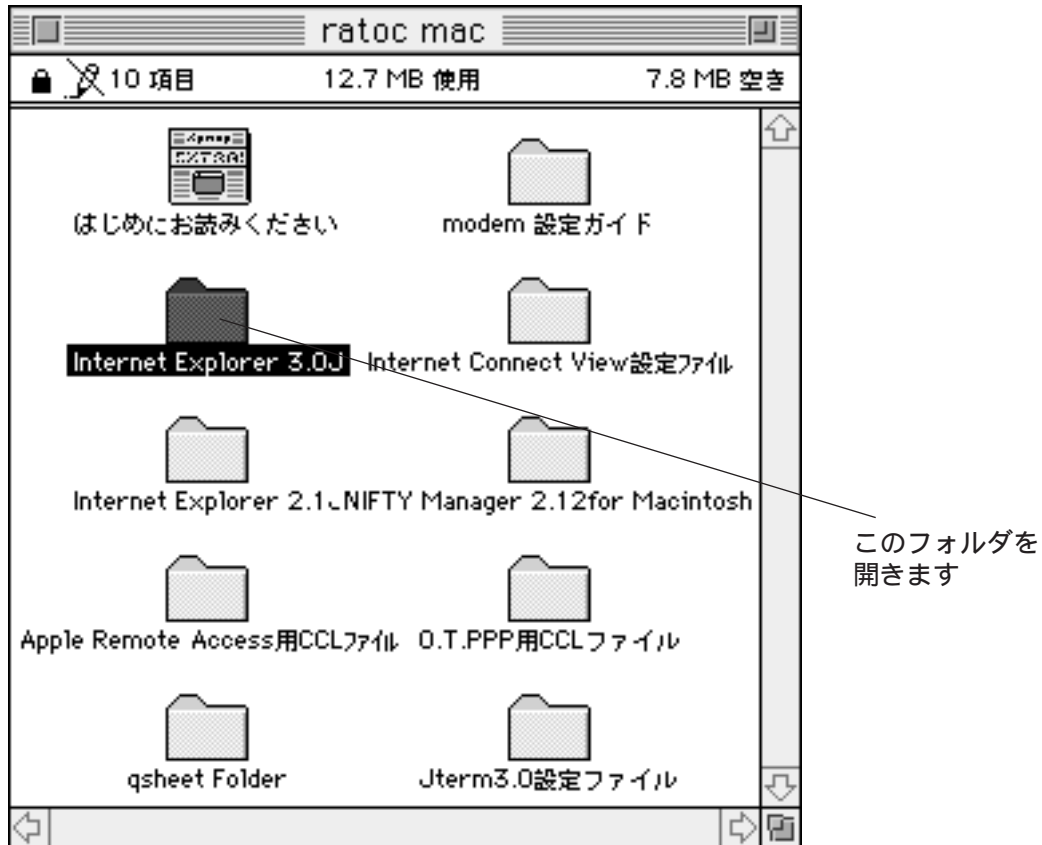


「REX-9561」アイコンを「機能拡張」フォルダ内に
コピーします。
「機能拡張」フォルダは「システムフォルダ」内に
あります。

(4) Internet Explorer のセットアップ

ここでは、添付 CD-ROM に入っているブラウザソフト「Internet Explorer」のセットアップ方法について簡単に説明します。

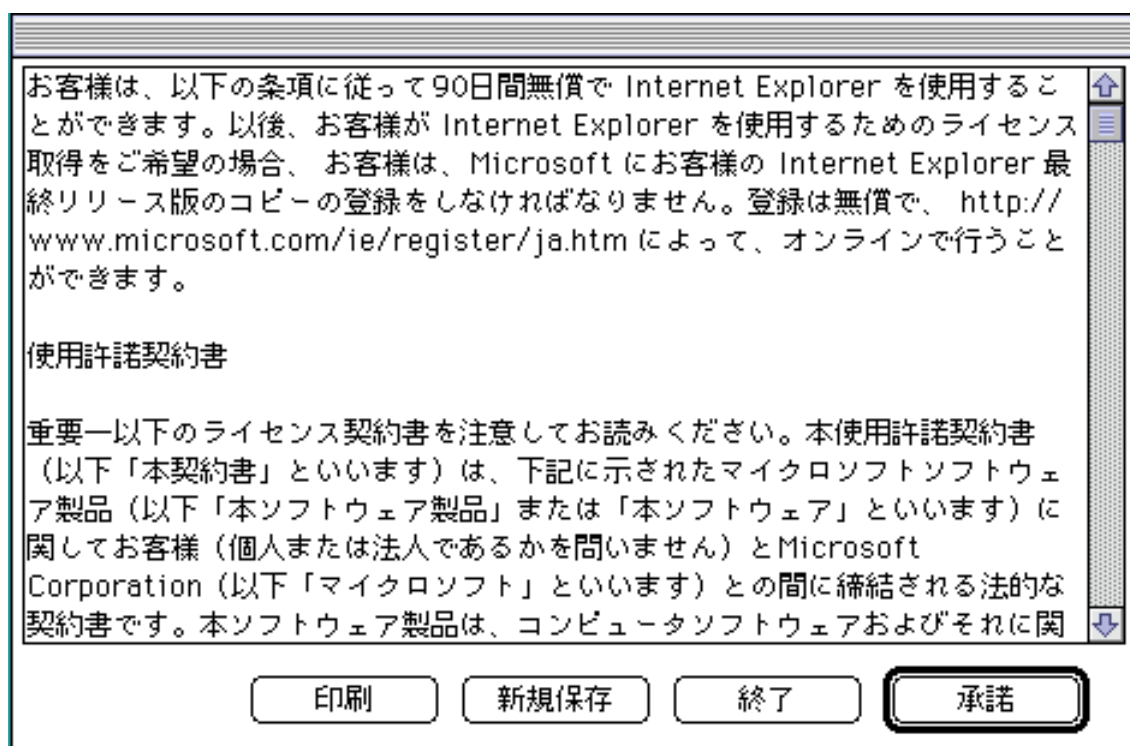
「Internet Explorer 3.0J」インストーラの格納されているフォルダを開きます



下記のアイコンをダブルクリックし「セットアッププログラム」起動します。

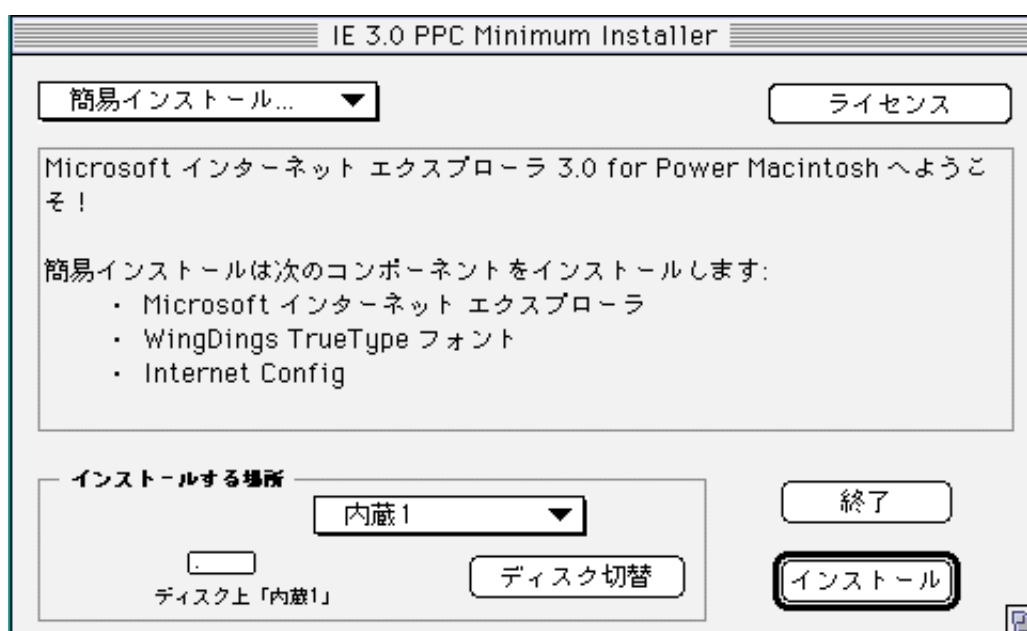


セットアップ開始に先立ち、本ソフト使用に関する使用許諾契約に関する内容が表示されます。画面上の契約内容をよくご確認のうえ「承諾」ボタンをクリックします。

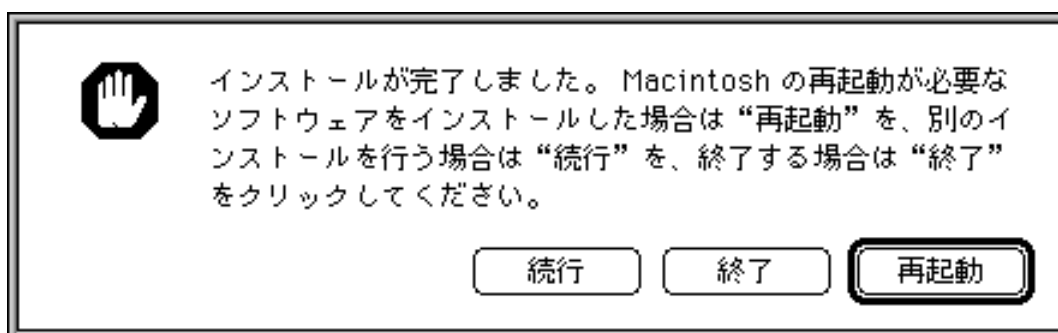


以下の画面では、特に問題がない限り「簡易インストール」を選択します。

（簡易インストールを選択すると、すべてのモジュールがインストールされます。ご自分でインストールするモジュールを選択したい場合、カスタムインストールを選択します。）



ファイルコピーが完了すると以下の画面が表示されます。



「再起動」をクリックすればインストールは完了です。

注意事項と制限事項について

REX-9561 でインターネット接続を行う場合、別途 ppp ソフトをご用意頂く必要があります。

REX-9561 に添付のインターネットエクスプローラだけではインターネットに接続できませんのでご注意ください。

ppp ソフトウェアの設定等に関しては、添付 FD 内電子ドキュメント「アプリケーションの設定」をご覧ください。

また、1997 年 2 月現在 REX-9561 にて動作確認を行った ppp ソフトウェアは以下の通りです。

Free PPP v1.0.4 / v1.0.5 / v2.5

Config PPP v2.0.1J6.0 / v2.0.1J6.3 / v2.2.0 / v2.2.0a-J

NIFTY-Manager 内でモデム設定項目の一覧には REX-9561 が入っておりません。初期化コマンド等設定方法の詳細に付きましては添付 FD 内もしくは CD-ROM 内の電子ドキュメントをご覧ください。

6 AT コマンド・S レジスタ・リザルトコードについて

AT コマンドは米国 Hayes 社が開発したモデム制御コマンドです。

REX-9561 への制御はこの AT コマンドによって行います。

ここでは REX-9561 で使用できる AT コマンドと、REX-9561 からの応答「リザルトコード」そして特殊な設定方法として「S レジスタ」への設定方法について説明します。

(1) AT コマンド体系について

AT コマンドは大きく分けると次の3つから成り立ちます。

- ・ コマンド
- ・ S レジスタ
- ・ リザルトコード

「コマンド」はパソコンから REX-9561 へ何らかの制御を行う時や各種設定を行う際に使用します。REX-9561 の設定に関しては後述する「S レジスタ」値を設定することによっても可能です。

「S レジスタ」は REX-9561 の詳細設定を行う際に使用します。REX-9561 の設定については、「S レジスタ」を変更するかあるいは「AT コマンド」によって変更できます。ほとんどの設定は「AT コマンド」もしくは「S レジスタ」のどちらからでも設定できますが、一部の特殊な設定は S レジスタの設定でのみ可能なものもあります。

またユーザによって変更された「S レジスタ」の値は REX-9561 内に保存する事も可能です。

「リザルトコード」は「AT コマンド」が発行された時の動作結果や、相手先に接続された時の接続状況（通信速度など）を表示する事です。

(2) AT コマンドの発行方法について

AT コマンドは次の形式でパソコン側より入力します。

A	T	制御・設定コマンド	CR (改行コード)	LF (復帰コード)
---	---	-----------	------------	------------

- ・ AT コマンドは ASCII キャラクタで指定します。
- ・ AT コマンドに使用する文字は半角で指定します。全角は使用できません。
- ・ コマンド文字は大文字・小文字どちらでも使用できます。ただし、混在使用はできません。
- ・ AT コマンドは1度に続けて指定できます。
- ・ AT コマンドを続けて指定できる最大文字数は56文字までです。
- ・ コマンド内のスペースキャラクタは無視されます。
- ・ コマンドの種類によってはパラメータ値が必要なものがあります。パラメータ値が必要なコマンドにおいて値を指定しなかった場合、自動的に「0」が指定されたものとなります。
- ・ コマンドの最後には「復帰」「改行」コードにより終了します。
- ・ REX-9561 はパソコンからの AT コマンドによりデータポートの速度・データビット等の条件を自動的に設定しますので、基本的には通信ソフト側の設定を意識する必要はありません。

(3) リザルトコードについて

リザルトコードとは、REX-9561 に対して何らかの AT コマンドを発行した場合や、REX-9561 が相手通信機と接続した際に、REX-9561 より返される状況表示の事です。

リザルトコードは次のいずれかのフォーマットで REX-9561 より ASCII キャラクタにより返されます。フォーマットは ATV コマンドにより指定します。

(1) 文字列表示のリザルトコードの場合

CR	LF	リザルトコード	CR	LF
----	----	---------	----	----

(2) 数値表示のリザルトコードの場合

リザルトコード	CR	LF
---------	----	----

文字列指定のリザルトコードか数値指定のリザルトコードのどちらを使用するかは、お客様がご使用の通信ソフトに合わせて設定します。出荷時の設定は「文字列表示」です。

ほとんどのソフトはどちらのリザルトコードにも対応しているため特に指定する必要はありませんが、一部のソフトではどちらか一方のモードにしか対応していない場合があります。その場合は、通信ソフトが対応しているリザルトコードに合わせて指定してください。

(4) S レジスタについて

S レジスタは、REX-9561 の各種設定値が格納されたレジスタです。このレジスタの値は AT コマンドにより変更できます。

S レジスタへの値の設定は「ATS」コマンドを使用し、以下のフォーマットで指定します。

ATSxxx = yyy (xxx に設定したい S レジスタの番号、yyy はそのレジスタに対する設定値を記述する)
--

また、S レジスタの種類によってはお客様が変更した値を最大で 2 種類不揮発性メモリへ保存することができます。

REX-9561 の場合、特別な場合を除き S レジスタの値は出荷時設定のまま問題なく使用できます。

(5) 設定内容の保存について

AT コマンドで設定した値や、S レジスタを変更した値などを不揮発性メモリへ保存しておくことができます。保存方法は「AT&W」コマンドを入力することにより、「AT&W」コマンド発行直前の設定状況を不揮発性メモリへ保存します。これにより、次に REX-9561 がリセットされた場合には、お客様が設定した値でモデムが初期化されます。

また、お客様が設定した値から出荷時の初期設定に戻したい場合、「AT&F&W」コマンドを入力することにより、次のリセット時より REX-9561 は出荷時の設定で初期化されるようになります。

(不揮発性メモリに書き込んだ設定値は REX-9561 への電源供給が無くなっても保持されます)

7 AT コマンド一覧

以下より AT コマンドの一覧とそのコマンドの説明を記述します。

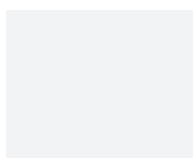
コマンド		コマンド解説	初期値
ATA		着呼を行います	なし
A/		直前のコマンドを再実行します	なし
ATB	0	モデムモードを ITU - T (CCITT) モードに設定します	
	1	モデムモードを BELL モードに設定します	
ATD		ダイヤルコマンド (ダイヤルコマンドの詳細は P12 参照)	
ATE	0	コマンドエコーを返しません	
	1	コマンドエコーを返します	
ATH		回線を切断します	なし
ATI	0	製品プロダクトコードを表示します	なし
	1	製品識別番号を表示します	
	2	ROM チェックを行い、正常なら「OK」異常の場合「ERROR」を返します	
	3	ROM のファームウェアバージョンを表示します	
	4	ファームウェア更新日付を表示します	
	5	国別コード (43) を表示します	
ATL	0	スピーカー音量を OFF にします	
	1	スピーカー音量を小にします	
	2	スピーカー音量を中にします	
	3	スピーカー音量を大にします	
ATM	0	スピーカー出力を常時 OFF にします	
	1	キャリア検出時までスピーカー出力を ON にします	
	3	ダイヤル中およびキャリア受信時はスピーカー OFF 受信中は ON にします。	

の項目は不揮発性メモリへの保存が可能です

コマンド		コマンド解説	初期値
ATN	0	自動フォールダウン機能を無効にします	
	1	自動フォールダウン機能を有効にします	
ATO	0	コマンドモードからオンラインデータモードへ復帰します	なし
	1	強制リトレインを行いオンラインデータモードへ復帰します	
ATQ	0	リザルトコードを返します	
	1	リザルトコードを返しません	
ATSr r =	= n	レジスタ内容を変更します (nの値の範囲はrにより異なる)	なし
	?	レジスタ内容を表示します	
ATV	0	リザルトコードを数字で返します (1桁 ~ 3桁の10進数)	
	1	リザルトコードを文字列で返します	
ATW	0	相手モデム接続時のリザルトコード情報を DTE 速度のみ表示	
	1	相手モデム接続時のリザルトコードを全て表示	
	2	相手モデム接続時のリザルトコード情報を DCE 速度のみ表示	
ATX	0	通信速度表示なし、発信時の BUSY、ダイアルトーン検出あり	
	1	通信速度表示あり、発信時の BUSY、ダイアルトーン検出なし	
	2	通信速度表示あり、発信時のダイアルトーン検出のみ行う	
	3	通信速度表示あり、発信時の BUSY トーン検出のみ行う	
	4	通信速度表示あり、発信時の BUSY、ダイアルトーン検出あり	
ATZ	0	カードを初期化し、不揮発性メモリ 0 の内容をセットします	なし
	1	カードを初期化し、不揮発性メモリ 1 の内容をセットします	

■ の項目は不揮発性メモリへの保存が可能です

コマンド		コマンド解説	初期値
AT&C	0	CD 信号を常時 ON に設定します	
	1	CD 信号は相手モデムのキャリアに従います	
AT&D	0	ER 信号を常時 ON に設定	
	1	ER 信号が ON OFF で回線切断	
	2	ER 信号が ON OFF でコマンドモードに戻る	
	3	ER 信号が ON OFF でモデムリセット	
AT&F		カード設定を初期出荷の状態に戻します	なし
AT&G	0	ガードトーン無し	
	1	550Hz のガードトーンを設定	
	2	1800Hz のガードトーンを設定	
AT&L		専用線モードへ移行します	なし
AT&M		非同期モードへ移行します	なし



の項目は不揮発性メモリへの保存が可能です

コマンド		コマンド解説	初期値
AT&P	1	ダイアルパルスを 10pps に設定 (メーク率 33%)	
	3	ダイアルパルスを 20pps に設定 (メーク率 33%)	
AT&R	0	CTS 信号は RTS が ON の時、S26 レジスタで指定した時間の後 ON に移行	
	1	CTS 信号は常時 ON に設定	
AT&S	0	DSR 信号は常時 ON に設定	
	1	DSR 信号はアンサートーンに追従し変化	
AT&T	0	ターミネートテスト実行 (+++ で中断)	なし
	1	ローカルアナログループバックテスト (低チャンネルモード)	
	2	ローカルアナログループバックテスト	
	3	ローカルデジタルループバックテスト	
	4	リモート側よりデジタルループバックテスト要求があった場合応答	
	5	リモート側よりデジタルループバックテスト要求があった場合無視	
	6	リモートデジタルループバックテスト	
	7	セルフテスト付きリモートデジタルループバックテスト	
	8	セルフテスト付きリモートアナログループバックテスト	
AT&V	0	不揮発性メモリの設定一覧表示	
	1	現在のモデム設定状況表示	
AT&W	0	現在の設定を不揮発性メモリ 0 に記憶	
	1	現在の設定を不揮発性メモリ 1 に記憶	
AT&X	0	モデムが発生した送信クロックを送信データ同期クロックとして使用	
	1	パソコン側の同期信号を送信データ同期クロックとして使用	
	2	受信キャリアからの同期信号を送信データ同期クロックとして使用	

■ の項目は不揮発性メモリへの保存が可能です

コマンド		コマンド解説	初期値
AT&Y	0	電源投入時不揮発性メモリ0の内容を設定	なし
	1	電源投入時不揮発性メモリ1の内容を設定	
AT&Zn = x		電話番号xをn番目のメモリに記憶 (0は0~3、xは最大256桁まで)	
AT¥G	0	モデム - モデム間のフロー制御を行わない	
	1	モデム - モデム間のフロー制御にXON - XOFFを使用	
AT¥J	0	端末(DTE)速度を固定	
	1	端末(DTE)速度をキャリア(DCE)速度に合わせる	
AT¥K	0	送受信バッファをクリア、ブレーク信号は送出不し	
	1	送受信バッファをクリアしてブレーク信号を送出	
	2	送受信バッファ内のデータを飛び越してブレーク信号を送出	
	3	"	
	4	送受信バッファ内のデータ送出後ブレーク信号を送出	
	5	"	
AT¥N	0	通信モードをノーマルモードに設定	
	1	通信モードをダイレクトモードに設定	
	2	通信モードを「LAPM MNP」で設定、両モードで確立不可の場合回線切断	
	3	通信モードを「LAPM MNP ノーマル」で設定(自動モード)	
	4	通信モードをLAPMモードに設定、LAPMモードで接続確立不可の場合回線切断	
	5	通信モードをMNPモードに設定、MNPモードで接続確立不可の場合回線切断	

の項目は不揮発性メモリへの保存が可能です

コマンド		コマンド解説	初期値
AT¥A	0	MNP ブロックサイズを 64byte に設定	
	1	MNP ブロックサイズを 128byte に設定	
	2	MNP ブロックサイズを 192byte に設定	
	3	MNP ブロックサイズを 256byte に設定	
AT)M	0	MNP10 リングネゴシエーション中のレベル調整禁止	
	1	MNP10 リングネゴシエーション中のレベルを調整を行う	
AT * H	0	リングネゴシエーションを最高速度で行う	
	1	1200bps でリングネゴシエーションを行う	
	2	4800bps でリングネゴシエーションを行う	
AT - K	1	LAPM から MNP10 への変換を禁止	
	2	LAPM から MNP10 への変換を行う	
AT - Q	0	フォールバックを禁止	
	1	フォールバック処理を行う	

ダイヤルコマンドのオプションについて

ダイヤルコマンド「ATD」には次のオプションが用意されています。

- P パルスモードでダイヤルを行う（ダイヤル回線用）
- T トーンモードでダイヤルを行う（プッシュ回線用）
- , S8レジスタで指定した秒数だけダイヤル作業をポーズ
- @ 5秒間無音を確認した後にダイヤル
- W S7レジスタで指定した秒数だけダイヤルトーンを待つ
- ^ ガードトーンを送出しない

■ の項目は不揮発性メモリへの保存が可能です

8 リザルトコード一覧

以下よりリザルトコード一覧とそのコードに対する説明を記述します。

数字形式	文字列形式	X0	X1	X2	X3	X4	説明
00	OK						ATコマンド正常完了
01	CONNECT						回線を接続
02	RING						着信した
03	NO CARRIER						回線接続に失敗
04	ERROR						ATコマンドエラー
05	CONNECT 1200	01					1200bps で接続
06	BUSY	03					相手先が通話中
06	NO DIALTONE	03	03				ダイアルトーンが検出できず
07	NO ANSWER	03	03	03			相手先不応答
10	CONNECT 2400	01					2400bps で接続
11	CONNECT 4800	01					4800bps で接続
12	CONNECT 9600	01					9600bps で接続
13	CONNECT 14400	01					14400bps で接続
14	CONNECT 19200	01					19200bps で接続
15	CONNECT 16800	01					16800bps で接続
24	CONNECT 7200	01					7200bps で接続
25	CONNECT 12000	01					12000bps で接続
26	CONNECT 1200/75	01					送信側1200bps 受信側75bps で接続
27	CONNECT 75/1200	01					送信側75bps 受信側1200bps で接続
28	CONNECT 38400	01					38400bps で接続
29	CONNECT 21600	01					21600bps で接続
30	CONNECT 24000	01					24000bps で接続

数字形式	文字列形式	X0	X1	X2	X3	文字列形式
31	CONNECT 26400	01				26400bps で接続
32	CONNECT 28800	01				28800bps で接続
33	CONNECT 115200	01				115200bps で接続
40	CARRIER 300					回線速度 300bps で接続
42	CARRIER 75/1200					回線速度送信側 75bps 受信側 1200bps で接続
43	CARRIER 1200/75					回線速度送信側 1200bps 受信側 75bps で接続
46	CARRIER 1200					回線速度 1200bps で接続
47	CARRIER 2400					回線速度 2400bps で接続
48	CARRIER 4800					回線速度 4800bps で接続
49	CARRIER 7200					回線速度 7200bps で接続
50	CARRIER 9600					回線速度 9600bps で接続
51	CARRIER 12000					回線速度 12000bps で接続
52	CARRIER 14400					回線速度 14400bps で接続
53	CARRIER 16800					回線速度 16800bps で接続
54	CARRIER 19200					回線速度 19200bps で接続
55	CARRIER 21600					回線速度 21600bps で接続
56	CARRIER 24000					回線速度 24000bps で接続
57	CARRIER 26400					回線速度 26400bps で接続
58	CARRIER 28800					回線速度 28800bps で接続
66	COMPRESSION: MNP 5					MNP5 圧縮プロトコル使用
67	COMPRESSION: V.42bis					V.42bis 圧縮プロトコル使用
69	COMPRESSION NONE					圧縮プロトコルなし

数字形式	文字列形式	X0	X1	X2	X3	説明
76	PROTOCOL: NONE					データ訂正プロトコルなし
77	PROTOCOL: LAP-M					データ訂正プロトコルにLAP-M使用
80	PROTOCOL: MNP					データ訂正プロトコルにMNP使用
81	PROTOCOL: ALT-CELLULAR					セルラープロトコルで接続
84	CONNECT 33600					33600bps で接続
91	CONNECT 31200					31200bps で接続
+FC	FCERROR					FAXモード通信エラー

9 Sレジスタ一覧

以下よりSレジスタ一覧とそのレジスタの説明を記述します。

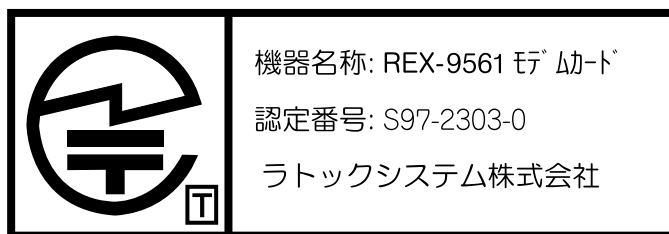
レジスタ	初期値	設定可能範囲	初期値
S0	000	000 ~ 255	自動着信の有無と自動着信するまでのRING回数の指定。0を指定する事により自動着信無効
S3	013	000 ~ 127	復帰キャラクタ (CR) の指定 (ASCII で指定)
S4	010	000 ~ 127	改行キャラクタ (LF) の指定 (ASCII で指定)
S5	008	000 ~ 127	後退キャラクタ (BS) の指定 (ASCII の指定)
S7	030	003 ~ 050	相手応答までの待ち時間 (アボードタイム) の指定
S8	002	000 ~ 255	コマ指定時のウェイト時間の設定 (単位「秒」)
S9	006	000 ~ 255	キャリア検出時間の設定 (単位「1/10 秒」)
S10	014	000 ~ 255	キャリア損失後ハングアップするまでの時間の設定 (単位「1/10 秒」)
S11	100	000 ~ 255	DTMF トーン長の設定 (単位「1/10 秒」)
S12	050	000 ~ 255	エスケープシーケンスガードタイムの設定 (単位「1/50 秒」)
S18	000	000 ~ 255	モデムテストタイマの設定 (単位「秒」)
S25	005	000 ~ 255	DTR 検知時間の設定 (単位「1/10 秒」)
S26	001	000 ~ 255	RTS 有効から CTS 有効までの時間の設定 (単位「秒」)

仕様

REX-9561 の仕様を以下に示します

MODEM 側インターフェイス部	
適用回線	一般公衆回線、専用線
通信規格	データ通信 ITU-T V.34+/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis V.22/V.21 Bell 212A/103 ファクス通信 ITU-T V.29/V.27ter/V.21ch2/V.17
通信速度	データ通信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/ 16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ファクス通信 14400/12000/9600/7200/4800/2400bps
エラー訂正	MNP 4、MNP 10、ITU-T V.42
データ圧縮	MNP 5、ITU-T V.42 bis
データ端末インターフェイス部	
DTE インターフェイス	PC Card Standard 準拠
通信コマンド	データ通信 Hayes AT コマンド準拠 ファクス通信 EIA-578 CLASS1/EIA-592 CLASS2
フロー制御	ハードウェア (CTS/RTS)、ソフトウェア (XON/XOFF)
同期方式	調歩同期
DTE 通信速度	1200/2400/4800/9600/19200/38400/57600/115200bps
その他	
外見寸法	54mm (w) × 85.6mm (D) × 5mm (H)
重量	31g
電源電圧・消費電力	+ 5V、850mW (最大) 39mW (スリープモード時)
動作環境	摂氏 0 ~ 55 度 湿度 20 ~ 80% (但し結露しないこと)
適合認定番号	S96 - 2051 - 0
付属品	モジュラーケーブル、ユーザズマニュアル フロッピーディスク、CD-ROM、中継カプラ

本製品は電気通信端末機器審査会（JATE）の基準適合認定を受けています。



REX-9561 質問用紙 (拡大コピーの上ご記入ください)

下記ユーザ情報をご記入願います

法人登録の方のみ	会社名・学校名		
	所属部署		
氏名			
住所	〒		
電話番号		FAX 番号	
シリアル番号			
販売店名		ご購入日	

下記パソコン環境情報と質問内容をご記入願います

パソコン機種名・メーカー		
使用 OS	Windows 95	Macintosh OS
質問内容 (状況等はなるべく詳しくお願いします)		

デバイスマネージャのシステム概要 (Windows 95 のみ)

- (1) コントロールパネルのシステムのデバイスマネージャから [印刷(N)...] ボタンを押します。
- (2) レポートの種類に「全てのデバイスとシステムの概要」を選択して [OK] ボタンを押します。